

環境省 持続可能な開発目標（SDGs）を活用した
地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業
＜2カ年事業計画＞

ローカルフードサイクリング 美和台

特定非営利活動法人 循環生活研究所

①- 1 地域課題の整理

■ 地域の状況や課題背景

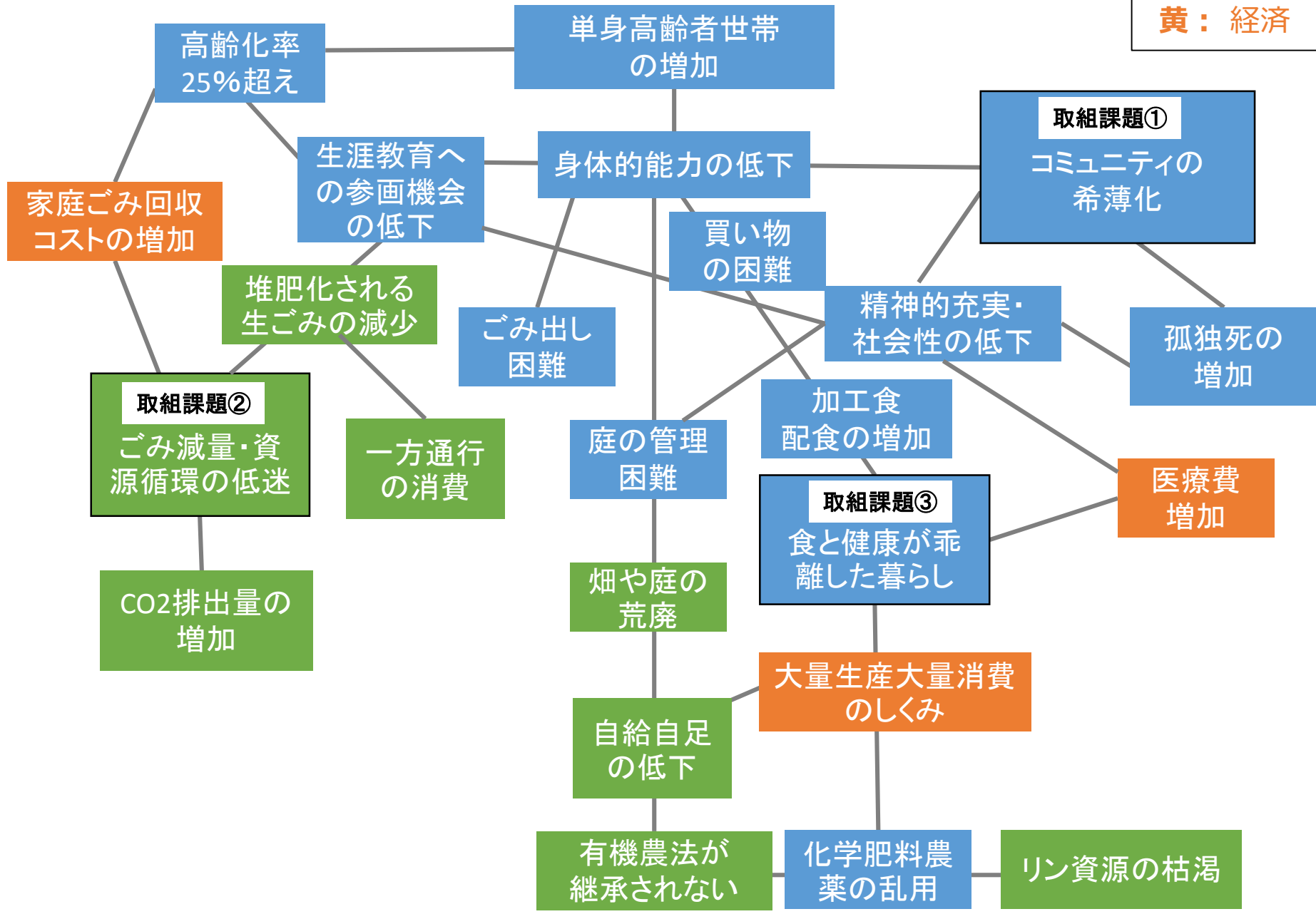
- ・ 美和台地区は人口6,600世帯、高齢化率が25%を超え、自治活動等の人材不足、地域コミュニティの希薄化が進むと考えられる。孤立する中高年者が増加し、特に単身世帯では孤独死の危険性が高まる。
- ・ 高齢者世帯の食事は加工品や購入した総菜等が多く、健康維持の視点があまり考慮されていない。
- ・ 生ごみコンポストはこの地区で20年普及継続してきたが、講座に出かけられる人数が減少。還元農地であった庭の管理も困難となり、現在は焼却場に行く生ごみ量が増加。ゴミ出しが困難な高齢者も多い。（生ごみは90%が水分で、運搬や焼却等において多くのCO2を排出する。）
- ・ 野菜を生長させる栄養素のうち、特に枯渇資源であるリンを日本は輸入に頼っている。（生ごみにはこれらの栄養素がバランスよく含まれる。）

■ 何と何の地域課題の解決に取り組むか

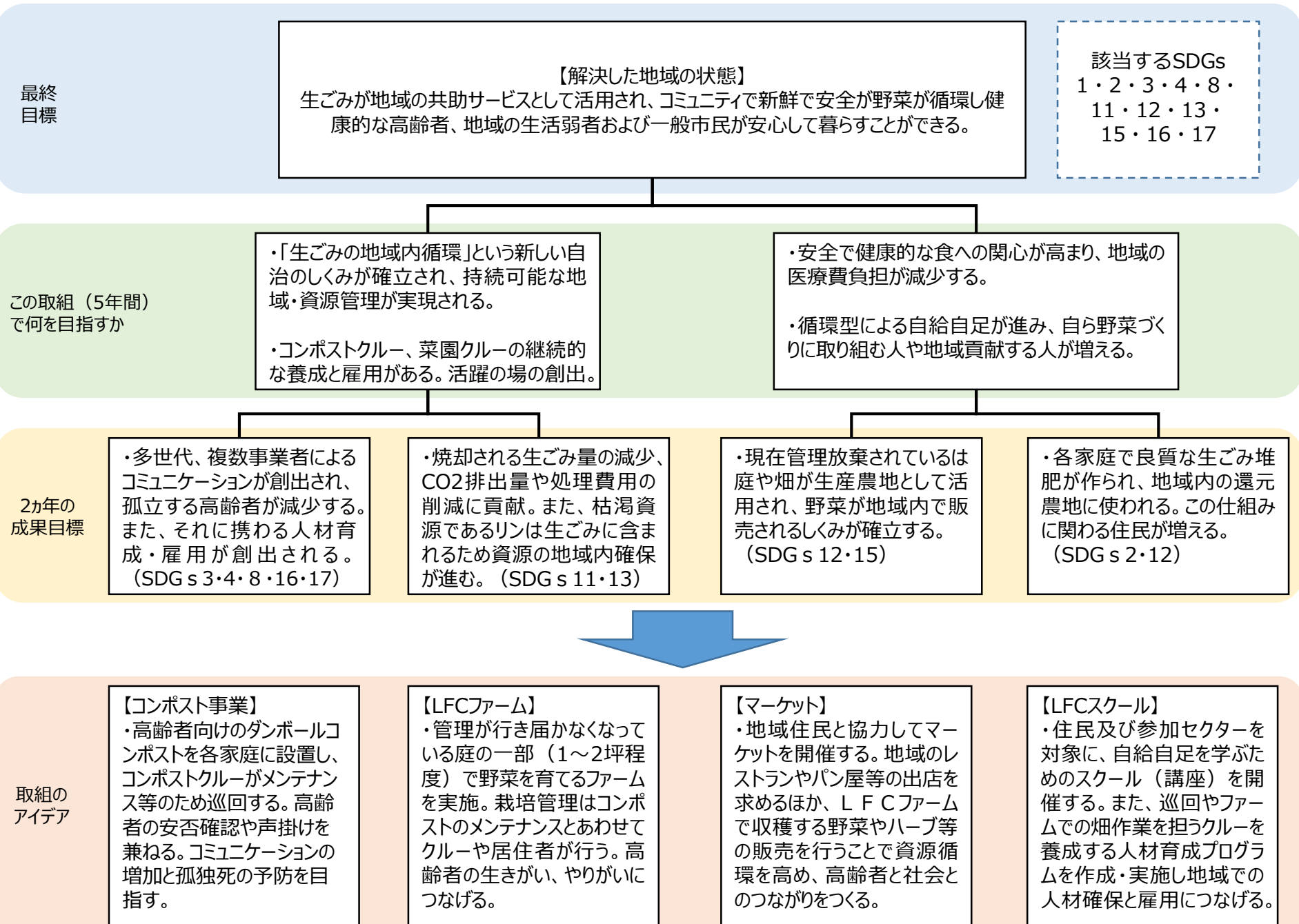
- ・ 高齢化によるコミュニティの希薄化
- ・ ごみ減量・資源循環の低迷化
- ・ 健康と食が乖離した暮らし

①-2 地域課題の整理（課題と課題の関係図） ※①-1を明示してください。

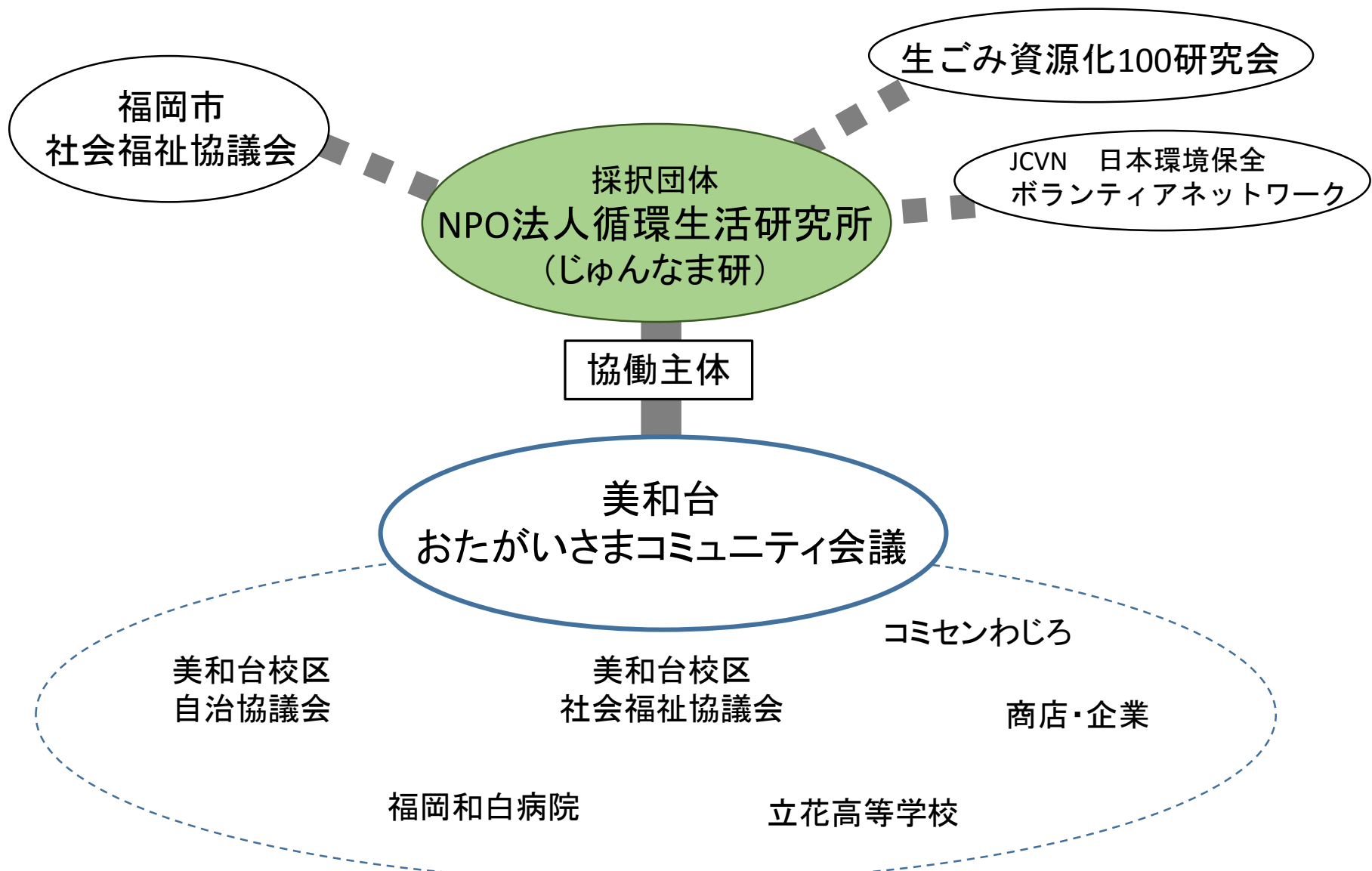
緑：環境
青：社会
黄：経済



② 事業の整理 (同時解決マップ)



③ 運営体制の整理（ステークホルダーとの関係性）



④ 平成30年度末までの到達目標

| 項目 | 目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか) |
|---|--|
| <p>【取組課題①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化に伴うコミュニティの希薄化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者向けのダンボールコンポストを100世帯に設置。高齢者の安否確認や声掛けを兼ね、コンポストクルーがメンテナンス等のため週1回程度地域を巡回する。 ・ コンポストの設置に当たっては説明会を月に1回開催し、参加者を募る。説明会では、コンポストの使い方や簡単な野菜の育て方などの講座も行う。 ・ 巡回するクルーを育成するプログラムを作成する。 |
| <p>【取組課題②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ減量・資源循環 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ダンボールコンポストを設置し、コミュニティ内での堆肥化が進む。1年間で生ごみを18t資源化、CO2を6.3t削減する。 ・ 5世帯の庭の一部を菜園とし、地域内で作った生ごみ堆肥を使って野菜を育てる。枯渇するリンを輸入に頼らず循環させる農業をコミュニティ内で実践する。 |
| <p>【取組課題③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康と食がかい離れた暮らし | <ul style="list-style-type: none"> ・ 庭で育てた野菜を販売するマーケットを内4回開催し、地域循環でできた野菜の周知がされる。マーケットを拠点とした住民の交流が生まれる。 ・ 栄養が地域内で循環し、身近な場所で育った野菜を手に入れられることで食への関心が高まる。 ・ 自ら自宅で野菜作りに取り組む人が増える。 |

⑤ 本事業計画の見通し

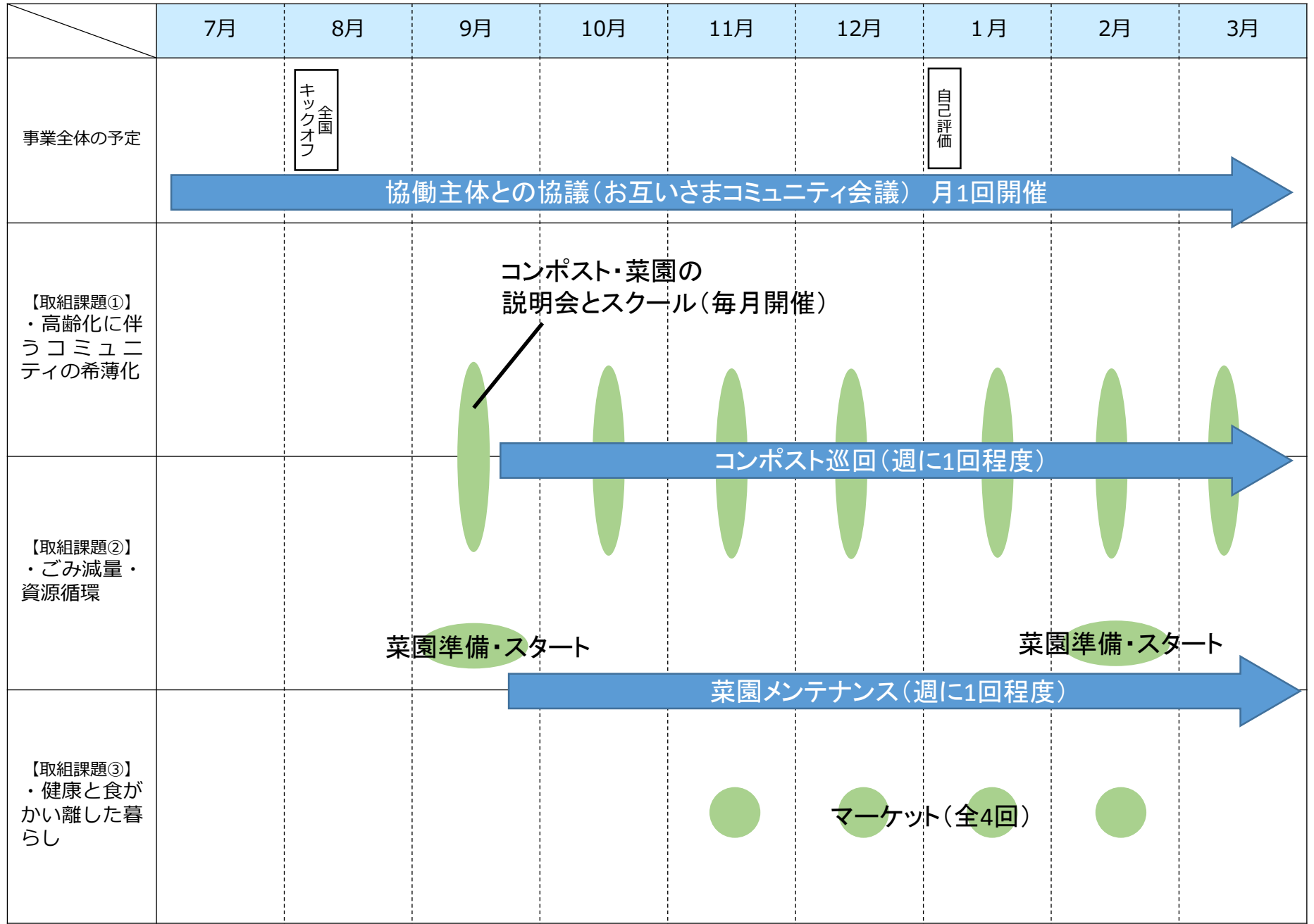
■ 事業期間内（2カ年）の到達目標

| 項目 | 目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか) |
|-------------------------------------|---|
| 【取組課題①】 ・高齢化に伴うコミュニティの希薄化 | ・高齢者向けのダンボールコンポストを200世帯に設置。高齢者の安否確認や声掛けを兼ね、コンポストクルーがメンテナンス等のため週1回程度地域を巡回する。 ・コンポストの設置に当たっては説明会を月に1回開催し、参加者を募る。説明会では、コンポストの使い方や簡単な野菜の育て方などの講座も行う。 ・巡回するクルーを育成し、地域内に2名の雇用が生まれる。 |
| 【取組課題②】 ・ごみ減量・資源循環 | ・ダンボールコンポストを設置し、コミュニティ内での堆肥化が進むことで、2年間で生ごみを32t資源化、CO2を11.2t削減する。 ・20世帯の庭の一部を菜園とし、地域内で作った生ごみ堆肥を使って野菜を育てる。枯渇するリンを輸入に頼らず循環させる農業をコミュニティ内で実践する。 |
| 【取組課題③】 ・健康と食がかい離れた暮らし | ・庭で育てた野菜を販売するマーケットを定期的で開催し、循環経済が活性化する。マーケットを拠点とした住民の交流が生まれる。 ・自ら野菜作りに取り組む人が増える。 |

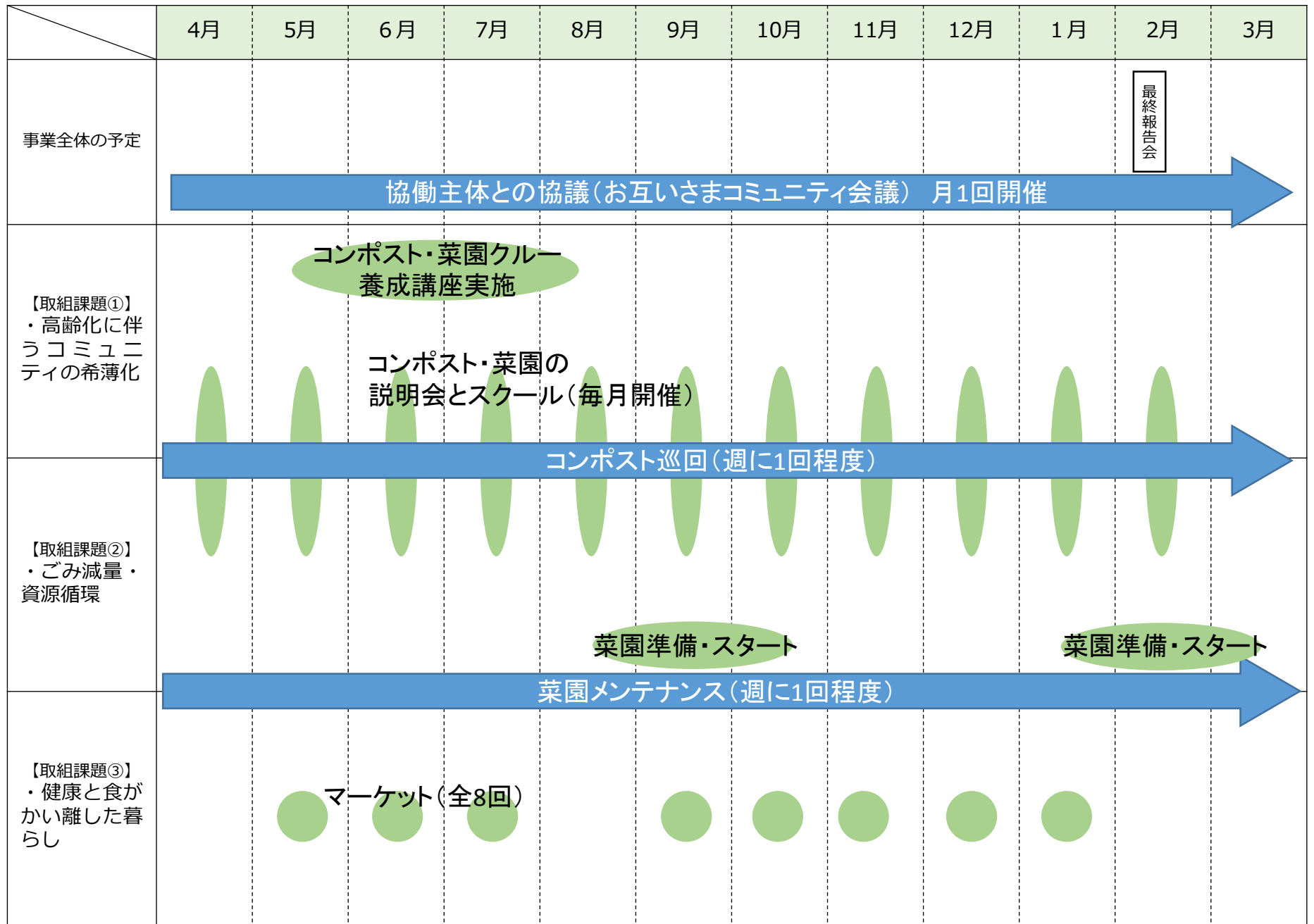
■ 5年後（事業期間終了から3年後）の取組と地域像

| 取組の状況や地域課題に対してどのような影響を与えているか |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ローカルフードサイクリングシステムにより、安全で健康的な野菜を食べる人が増える。 ・生ごみが地域の共助サービスの資源として大切に取扱われ、地域内で循環する。 ・地域内にさまざまな健康増進、コミュニティ形成、自給自足のためのサービスや教育プログラムが実施される。 ・コミュニティの活性化が進み、安心して住める地域になる。 |

⑥-1 課題解決に向けたスケジュール（平成30年度）



⑥-2 課題解決に向けたスケジュール（平成31年度）



⑦ その他補足事項

■ 事業を進める上での課題やリスクとその対策

- ・ 人材の確保（クルー）
教育機関との連携や、地域ボランティアの育成
- ・ 移動手段
- ・ 評価システム
研究会での検討
医療機関との連携

■ その他、留意事項などがあればお書きください

・